

第4版からの改訂内容一覧 (2023年5月24日版)

● 第5版の訂正内容

・目次

(誤) 付録2 スウェーデン式サウンディング試験結果を用いる場合の～

(正) 付録2 スクリューウエイト貫入試験結果を用いる場合の～

● 第5版の主な変更点

- ・2020年に「JIS A 1221 スクリューウエイト貫入試験方法 (旧スウェーデン式サウンディング試験方法)」が改正され、この改正に準じた内容の変更。(2.5 現地計測)
- ・1.1 適用範囲および建築物の適用範囲を変更した。
- ・2.3 事前調査、2.4 現地踏査を図や写真を多用し分かり易くした。
- ・付録では、スクリューウエイト貫入試験装置の点検表を追加した。
- ・それ以外の変更点を下表に示す。

第5版 ページ	章・節・項	変更前	変更後
P1	1.1 適用範囲及び建築物	①建物高さ 13.0m 以下 ②軒高 9.0m 以下 ③設計基礎接地圧は～	①地上3階以下 ②建物高さ 13.0m 以下 ③延べ床面積 500m <sup>2</sup> 以下 ④設計基礎接地圧は～
P2	1.2 荷重	表 1.2.2 概算建物荷重の例	表 1.2.2 を小規模建築物基礎設計指針の建物の荷重に変更
	その他荷重 積雪荷重計算式		2020年版建築物の構造関係技術基準解説書へ修正
P6	2. 地盤調査 2.3 事前調査	表 2.3.1 既存資料の種類と入手方法	整理し、最新の情報へ変更
P7	・地形		図 2.3.1 地形の模式図…地盤をみるより引用
	・起伏の位置関係		図 2.3.2 主な傾斜変換点を示した例を追加
P8	・地質年代	図 2.3.2 第四紀の時代区分と堆積物の名称	詳細化し「付録3 地質年代と海進・海退」として追加
	①地形図		「インターネットによる閲覧サービス」について追記 図 2.3.3、2.3.4 を追加
	②旧版地形図		図 2.3.5、2.3.6 を追加
P9	③土地条件図・治水地形分類図		図 2.3.7、2.3.8 を更新

	④空中写真		写 2.3.1 を土地利用の変遷が分かるように変更
P10	⑥地盤図		図 2.3.10 を追加
P11	⑦ウェブサイトの利用		図 2.3.11 変更、GoogleMap・GoogleEarth について説明の追加
P12	⑧ハザードマップ	旧「⑧その他」	ハザードマップポータルサイトへの QR コードの追加 液状化危険度図の一例を追加
P14	2.4 現地踏査 2.4.1 現地踏査のポイント ①地形・地質		表 2.4.1 を追加
P15	②敷地の傾斜や敷地境界の高低差		写 2.4.1 を追加
	③敷地履歴・造成経年		写 2.4.2、2.4.3 を追加
P16	④造成盛土の状態		写 2.4.4 を追加
P17	⑤周辺異常等の状況		表 2.4.6 に対応した 写 2.4.5、2.4.6、2.4.7 を追加
P19	⑥その他		表 2.4.7 を追加
P20	2.4.2 既存擁壁の確認	第 4 版 P16 擁壁の写真	削除
P23	2.5 現地計測 2.5.1 スクリューウエイト貫入試験方法		図 2.5.1、2.5.2、2.5.3 を変更
P24～26	調査フロー	手動フローのみ	半自動・全自動機のフローを追加 (図 2.5.4～2.5.8 に変更)
P27	長所、短所の表		表 2.5.1 一部修正表についての対策の追記
P28～29	2.5.2 測点の位置を測る		「地盤をみる」より引用 調査測点の平面位置や高さの測定、景観観察と周辺のスケッチについて
P30～32	2.5.3 スクリューウエイト貫入試験機		新しい JIS の内容に修正 スクリューポイントの摩耗基準について追記 ロッドの曲がり基準について追記

P33～ 36	2.5.4 調査測点		「地盤をみる」より引用 ①傾斜地における測点選択 ②平坦地における測点選択 ③擁壁にからむ場合の問題 ④人為的改変 ⑤擁壁下調査について追記
P37	2.5.5 貫入障害と特異データの 対応 貫入障害について		「地盤をみる」より引用 貫入障害への対処方法の追記
P38	特異点について		「地盤をみる」より引用 表 2.5.4 特異点の例を追記
P51	2.7 各種調査方法 ②動的コーン貫入試験		写 2.7.3 写真変更
P56	2.8 地盤解析 2.8.1 調査結果の解釈と利用		せん断抵抗角に応じて掲げる支持 力係数の計算式を追記
P59	2.8.2 基礎形状地盤補強工法の 選定提案 ①地盤補強工法の選定		表 2.8.5 の安全性の説明について 追記(◎○△×の説明)
P61			図 2.8.4 の YES、NO の記載方法の 変更(有り、無しに変更)
P63			表 2.8.6、2.8.7 を微修正
P66	2.8.3 許容沈下量と不同沈下		表 2.8.13 を追加
P71	3.1 表層地盤改良 3.1.3 設計の考え方 ③配合量について		固化材最低添加量の設定 粘性土 60kg/m <sup>3</sup> 砂質土 50kg/m <sup>3</sup>
P73	3.1.4 許容鉛直支持力度の算定		せん断抵抗角に応じて掲げる支持 力係数の計算式を追記
P76	3.1.5 材料		六価クロム低減型セメント系固化 材を汎用セメント固化材へ一体化 (一般軟弱土用=六価クロム低減型 となっていると思われる)
P86	3.2 柱状地盤改良 適用に注意を要する地盤		火山灰質粘性土の例を追記 (ローム・鹿沼土など)
P89	3.2.4 許容鉛直支持力の算定		・計算式を小規模建築物基礎設計 指針に概ね準拠 ・換算 $N$ 値の計算式で粘性土を追 記(式 3.2.10) ・一軸圧縮強さの計算式に $N_{sw}$ を 追記(式 3.2.11)
P90			「標準貫入試験や土質試験の結果」 の利用時について追記

P93	3.2.5 材料		六価クロム低減型セメント系固化材を汎用セメント固化材へ一体化（一般軟弱土用=六価クロム低減型となっていると思われる）
P94	3.2.6 配合管理		図 3.2.15 配合管理フローの $\alpha_1$ 、 $\alpha_2$ の説明について修正
P99	3.2.7 施工 ③施工準備	「地縄や改良芯から配置の～」	「地縄や遣り方から配置の～」に修正
P104	管理値設定フロー		図 3.2.23 管理値設定フロー中の攪拌翼枚数の上限「～10 枚以下」を削除
P105	⑥管理値の設定 1) 施工深度の確認		施工深度の管理方法の追記
P114	3.2.8 品質管理 ③鉛直確認・改良体芯ずれ量	「改良体芯ずれ D/6 以内」	「改良体芯ずれ D/6 以内かつ 100mm 以内」に変更
P129	3.3 小口径鋼管 3.3.7 施工管理		図 3.3.13 のフローを微修正
P132	①打ち止め管理と支持力の確認 4) 鋼管載荷試験		図 3.3.16 の変更
	②鉛直・芯ずれ量・天端高さの確認		文言を修正 鉛直、芯ずれ、天端高さそれぞれで記載
P143	3.4 小口径既製コンクリートパイ 3.4.6 施工 ①施工準備・施工機械	表 3.4.4 「全長」	表 3.4.4 「リーダー長」に変更
P146	3.4.7 施工管理 ①パイルの打ち止め管理		1) と 2) の順番を変更 「設計深度と圧入力値の双方による確認」を主に実施のため
P147			図 3.4.14 のフローを微修正
	②パイルの鉛直確認・芯ずれ量・天端高さの確認		文言を修正 鉛直、芯ずれ、天端高さそれぞれで記載
付録 1	スクリーウエイト貫入試験装置点検表		新規追加
付録 3	地質年代と海進・海退		新規追加 P8 地質年代より補足して追記